

33 アートの会 1 月度 座学 報告

日時 ; 1 月 21 日 水曜日 13:15 から 16:05

場所 ; 市民センター @204 室 9579

参加者 ; 小林猛、塩路夫妻、庄司、高濱、辻井、永井、榎本、光長、山川夫妻、山崎、清水、岡田、山口弘子、吉田、安居院 (記) 計 17 名

漫画アニメの原画 若冲と応挙 聴竹居 落谷虹児 大ピンチ図鑑

今回は、アラカルトでいろいろなものを楽しんでもらいました。間口が広がりましたか。まず、日本の宝・漫画やアニメの原画について、現在の世界の事情と我々は今後どうするべきかを考えるヒントをもらった。

また、新しく発見された若冲と応挙の合作屏風絵について、その成り立ちについて勉強した。100 年も前に、現代人の理想的な住居を目指して建てられた「聴竹居」について勉強した。誰もが知っている童謡「花嫁人形」の作詞家であり画家でもあった落谷虹児の感動の物語。今一番売れている絵本、「大ピンチずかん」の作者・鈴木のりたけさんについて勉強した。

1. NHK「マンガ・アニメ文化の行方 なぜ“原画”は海外へ」

13:15-14:15

たった 1 枚のマンガの原画が「3500 万円」。

いま、世界中でマンガの原画やアニメのセル画が高値で取引されている。

いったい、誰が、どのような目的で売買しているのか。

“美術品”として高額な値段がつく一方、近年では文化的資料としての見直しも進んでいる。

番組では売買の目的など原画をめぐる

海外の動向や、国が原画の収集・保全に乗り出した国内の動向を追う。

ナレーションは朴璐美が担当。

感想 ;

この番組を見て、なるほどと、原画が持つ素晴らしさが理解できた。でも漫画やアニメに対する我々の思いは、消費されるものとしか考えてこなかった。

まさに明治時代の浮世絵と一緒にある。漫画やアニメに文化や芸術としての価値があることにフランス人が先に気が付いたのだ。

世界の財産として、広く公開すべきものだと。

一方日本では、その価値を見つけない儘、一部の美術館は保存に力を入れているが、文化庁もやらねばならないと言っているだけのようだ。早急に取り組むべき問題であろう。



2. 新・美の巨人たち

新発見！若冲の金屏風は、応挙との合作コラボ…その真相に迫る！

14:15-14:40

新発見！奇想の絵師・伊藤若冲の金屏風は、なんとあの円山応挙との合作コラボだった。躍動する鶏を超絶技巧で描いた若冲、対する応挙は神業のような鯉を練達の筆致で。江戸時代の半ばの18世紀、京の町で暮らした二人は実にご近所さん。しかし、17歳も年の離れた二人に交流の史実はほとんどありません。



では、なぜ夢のような競演を成し遂げたのか。合作の根拠は？どちらが先に描いたのか？一体、発注者は誰なのか？奇跡のコラボのゾクゾクする真相に迫ります。

感想；

屏風を準備した依頼人が、二人にそれぞれの得意の画材を描いくれと依頼したのであろうと。17歳若年の円山応挙が先に「鯉の絵」を描き、それから明和の大火災を経て、若冲が「鶏の絵」を後から書いたのであろうということだった。それが証拠に若冲の描いた左隻の鶏は応挙の描いた右隻の鯉をにらんでいるように描かれており、まだまだ小僧には負けないぞと、画面いっぱい鶏を7羽も描いて、これでもかと思わせる絵を描いているとのこと。なるほど。

3. 新・美の巨人たち 藤井厚二「聴竹居」×内田有紀

14:40-15:05

昭和3(1928)年に建てられた「聴竹居」は、当時の最先端住宅です。今も京都・大山崎の天王山の麓に佇んでいます。昭和以降に建てられた、建築家の個人住宅では、初めて国の**重要文化財**に指定されました。



設計は、大正から昭和に活躍した建築家、藤井厚二。求めたのは、「豊かな暮らし」

「穏やかな暮らし」…この家の至る所に

彼のアイデアが仕込まれているのです。今も見学者が引きも切らない日本の近代住宅の最高傑作「聴竹居」に内田有紀さんが迫ります。

感想；

建築家は公共の建物を中心に設計するものであったときに、ひたすら個人住宅にこだわったのが、藤井厚二だった。理想の住居を研究するためにフランスにまで行っている。

そして、当時は珍しいオール電化の住居を作ったのだ。

また、アマノジャクの私としては、京都の暑い夏を防ぐための工夫をたくさん紹介していたが、あんなにスケスケの住宅にすると、底冷えのする京都の冬の寒さ対策はどうしたのかとても気になる。暖炉もなさそうだし、炬燵が置ける畳の場所は4畳ぐらいしかない、洋間ばかりの部屋で、特に食堂などの暖房がどうであったのか、その工夫を知りたいと思った。

4. 休憩

15:05-15:15

原罪会費の残高が 2,960 円となっており、今回、年初にあたり会費を徴収することにした。今は、一人当たり 1,000 円を、ご負担いただいた。会計報告詳細は HP で確認のこと。

5. 新・美の巨人たち 落谷虹児「花嫁」はなぜ泣いている×八木亜希子 15:15-15:40

新潟県新発田市にある落谷虹児記念館。

3000 点もの収蔵品が収まるここに代表作「花嫁」が。

その美しい相貌には涙が。なぜ？（絹本に描かれた日本画）

童謡「花嫁人形」の作詩で全国に名が知れた、詩人でもありました。抒情画という画風を生み出し、少女たちの心に寄り添う詩をいくつも発表しました。

幼い頃に母を亡くし、絵筆一本で家族を支え、新潟、東京、樺太、パリと波乱の人生を歩んだ画家が、描かずにはいられなかった作品なのです。

晩年に竹久夢二の事を語るインタビューや、彼が手掛けた日本初のカラー短編アニメの貴重な映像を交え、「花嫁」の涙の謎に迫ります。



落谷虹児とアニメーション；

虹児は東映動画内で『夢見童子』を製作するにあたり、監督業だけでなく宣伝広告のデザイン、映画テーマ曲の作詞まで、一人何役も担当した。このマルチなプロデュース・スタイルは、のちの宮崎駿のスタイルの先駆けとなった。虹児が採用した国産カラーインクによるカラーアニメ製作ノウハウを本格運用したのが、日本初の長編カラーアニメ映画『白蛇伝』であった。当時高校生の宮崎駿は『白蛇伝』に感動、大学を卒業すると東映動画に入社。さらに、手塚治虫も自伝『ぼくはマンガ家』にて、映画『白蛇伝』に刺激を受けて自らのアニメーション製作を決意したと記載している。

感想；

番組の解説で、他家へ嫁ぐ花嫁はこれから大変なことが持ち受けていることを覚悟し、失われた青春時代を懐かしんで、泣いているのだと。童謡「花嫁人形」も泣いている。落谷虹児の「花嫁」の絵も泣いている。特に 15 歳で駆け落ちして虹児を生んだ母親は、全く青春時代がなかったので、その絵では一粒の涙をこぼしているのだろうと。虹児には、母というよりは、14 歳しか違わないので、お姉さんのような存在だったのであろう。

現代では、他家へ嫁ぐということがなくなった。さだまさしの「秋桜」の世界はもう過去のこと、二人だけの生活に入っていきだけ。涙をなぜ流すのかわからないという処だろう。もはや理解不能。花嫁人形の唄も近頃がトンと聞かないな。我々が理解できる最後の世代か。また、竹久夢二風の和服の少女を描いていた彼が、藤田嗣治や東郷青児らと共にしたパリ時代をへて、雑誌の表紙絵も洋装の美人画に代わっていくところは面白かった。

5. 新・美の巨人たち メガヒット絵本「大ピンチずかん」 作者はおもしろがる天才！ 15:40-16:05

空前のヒットとなった絵本「大ピンチずかん」の世界を体感できる展覧会が東京・立川で開催中！作者・鈴木のりたけ氏が自ら考えた遊び心に溢れる様々な仕掛けを、子どもから大人まで楽しんでいる。

アトリエを訪ねるといきなり自撮りから始まって…絵の制作現場は意外性の連続！誰にでも一瞬でわかる絵を描くことが大切と言い切る、試行錯誤を重ねる様子を紹介。



そして今「大ピンチ」は絵本の枠を飛び越えて新たな表現へ！
絵本の読み聞かせがライフワークの南果歩さんが、鈴木さんの創造の源を解き明かす。

感想；

共感を呼ぶ絵。しかも子供に響く絵。素晴らしい技術だ。

一橋大学から JR 東海を経て、広告会社へ、異例の経歴。

自分の子供たちを観察した結果が、大ピンチ図鑑につながった。

あっしまった！と思うことは日常茶飯事。その時に、これ大ピンチと言って楽しむということ。深刻ぶらない。誰にでも起ることなのだ。楽しんでしまえという発想が素晴らしい。落ち込まなくていい。誰もが、みんなが経験しているとわかれば、たいしたことではないと思える。

こんな単純なことに、焦点を当てた絵本を描いた鈴木のりたけさんの発想に驚くが、それは子供たちが見て、ありありとその場を思い出すようにしっかりと描きこまれているのである。その描写力が素晴らしい。

読み聞かせでも、分かるように子供たちが自分の体験をさも自慢そうに語っている姿は、生きる力を感じさせる。不幸を乗り越える力強さを感じる。

私たちも年寄りだからと愚痴ばかり言っていないで、率先してピンチを楽しもう！

その楽しいと思う心は孫の世代にも伝染する。楽しい輪が広がっていくのだ。

孫たちと一緒に楽しめる、良い番組を見た。

以上